

第4章

地域別の取組状況

(1) 佐久地域 ～夢ある未来にチャレンジ!! 健康長寿の里で広げる佐久農業～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	果樹・花きの新規就農者数	4人	5人	6人	8人
	果樹・花きの産出額	45億円	45億円	44億円	45億円
2	春夏秋期キャベツ、はくさい、レタスの指定産地出荷量の維持	327,279 t	327,279 t	334,402 t	327,279 t
	5年間で鮮度保持機能の向上を行う施設数(累計)	—	2施設	4施設	5施設
3	水田を活かした新規需要米等の作付面積	200ha	230ha	198ha	260ha
	酪農家1戸当たりの飼養頭数	67頭	69頭	67頭	72頭
4	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数(累計)	—	1か所	1か所	7か所
5	新たに地元食材を供給する宿泊施設数	—	8施設	14施設	20施設
	食育等に関わる運営組織の連携数	—	2組織	2組織	5組織
6	地域ぐるみで取り組む多面的機能支払等活動取組面積	3,945ha	4,635ha	4,379ha	5,438ha
	定年等帰農者数	16人	46人	55人	76人

重点取組1：次代へつなぐ意欲ある担い手の確保・育成

- 果樹・花き産地を支える担い手の確保・育成
 - 果樹・花きの担い手を確保・育成するための関係機関検討会議の開催（12回）及び地域版経営指標の作成
 - 里親研修生及び新規就農者の技術の習得状況を把握するための巡回（月1回）と技術集合同研修会の開催（3回）
- 市町村の実情に応じ、就農相談、研修、農地・施設・住宅の斡旋等による新規就農者の確保・育成を支援
 - 次代の農業を担う農業者を育成するため、農業次世代人材投資事業を活用した新規就農者の早期経営安定と経営課題の解決に向けたスキルアップ講座（4回）や簿記講座の開催（7回）
 - 新規就農者を確保するため、県外就農相談会への出展（2回）
- 若い意欲ある担い手の組織化による生産技術の向上
 - 若い担い手グループへの技術指導（8回）と先進地講師による技術講習会（1回）
- 果樹・花き栽培技術等の新たな担い手への円滑な継承
 - 新しい化栽培技術等を活用したシナノリップ等オリジナル有望品種の導入支援(0.8ha)
 - カーネーションの2番花の切花率向上を図るための電照試験ほ場の設置（2か所）



【momoLab*の剪定講習】

※JA佐久浅間管内でももも栽培する担い手グループ

重点取組2：夏秋期野菜の安定供給と責任産地としての生産流通体制強化

- 需要に応じた葉野菜の計画生産と難防除病害や気候変動に対応する栽培技術の向上
 - アブラナ科野菜根こぶ病の発病事例調査（14件）と対策研修会の開催（2回）
- 稼ぐ野菜産地を支える鮮度保持施設等の機能向上と労働力の適正化
 - 野菜の安定流通に向け、鮮度保持施設等の機能強化を実施（2か所）
- 業務需要や市場ニーズなど新たな付加価値を生む品目の生産振興
 - アスパラガス伏せ込み促成栽培実証ほ場の設置・普及性の検討（2か所）



【埋原試験地検討会】

- 環境にやさしい野菜生産や国際基準に対応できるGAPの取組を支援
- 信州の環境にやさしい農産物認証及びGAP等の取得支援（認証取得 29 件）

重点取組 3：強みを活かした競争力の高い水田農業、畜産業の振興

- 水田フル活用と耕畜連携による多様な作物生産の振興
 - 新たな新規需要米として「つきあかり」の栽培試験の実施（3か所）
- 生乳生産性の向上や飼料給与技術の導入による酪農等生産基盤の強化
 - 効率的な飼養管理の改善のための牛群ドックの実施（9戸）
- 家畜衛生及び畜産環境の徹底と疾病に係る危機事象への迅速対応
 - 衛生管理と家畜排せつ物処理を徹底するための農家巡回の実施(79戸)
 - 特定家畜伝染病の発生を想定した防疫演習の実施（1回）
 - CSF（豚熱）まん延防止対策の実施（防止柵の設置 15 件・経ロワクチン散布 2か所、ワクチン接種（13,000 頭余）への支援）



【経ロワクチン散布】

重点取組 4：農業を支える基盤整備の推進

- 水利施設等の機能診断を行い、農業に不可欠な用水を確実に確保するなど、農業生産基盤整備の推進
 - 用水の安定供給等を図るため、新たに 8 地区の基盤整備事業に着手
- 農地中間管理機構と連携して農地の集約化と基盤整備の推進
 - 農地中間管理機構と連携したほ場整備事業を計画している市町村が策定する営農計画への技術的支援



【老朽化した用水路】

重点取組 5：地域食材の魅力を伝える地消地産と食育の推進

- 農産物直売所を核とした小ロット流通体制の構築
 - 宿泊施設を対象にした地元野菜試食会の開催（1回）
- ホテル、旅館等で使われる食材の地域産への置き換えによる利用促進
 - 地元食材のPR映像の作成と宿泊施設等での活用（120 施設）
- 学校等における食育・花育及び農業体験の推進
 - 花と触れ合う授業の開催（9校 10 クラス 420 名）



【地元野菜試食会】

重点取組 6：多様な人材による農村の活性化

- 農業・農村の多面的機能の維持や農村コミュニティの活性化に向けた地域ぐるみの協働活動への支援
 - 新たに活動に取り組む市町村、組織を支援（4 組織）
- 直売所向けの野菜・花きの栽培技術の向上支援
 - 花き就農希望者セミナーの開催（セミナー 2 回、参加者 15 名）
- 野生鳥獣から農作物を守る集落ぐるみによる効果的な対策の推進
 - 補助事業等を活用したわなの設置、緩衝帯の整備等の実施



【花きセミナー】

(2) 上田地域 ～多様な人材が活躍する、人と食をつなぐ上小農業～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数(年間)	12人	18人	16人	18人
	中核的経営体数	442経営体	475経営体	510経営体	523経営体
2	県オリジナル品種の普及面積	99ha	180ha	173ha	279ha
	国際水準GAPの取得件数	1件	2件	4件	5件
3	ブロッコリー栽培面積	72ha	90ha	90ha	90ha
	ぶどう無核化率	48%	68%	70%	78%
	防ひょうネットの設置面積	4ha	75ha	42ha	100ha
4	常設農産物直売所の売上額	18億円	20億円	18億円	22億円
	「おいしい信州ふード」SHOP登録数	60件	68件	66件	74件
5	ため池の耐震対策実施箇所数	0か所	18か所	18か所	18か所
	獣害対策用の侵入防止柵の設置延長	259km	295km	292km	310km
6	多面的機能を維持・発揮するための活動面積	3,725ha	5,072ha	5,478ha	5,315ha
	ワイン用ぶどうの栽培面積	75ha	92ha	95ha	110ha

重点取組1：多様な人材が活躍できる、地域と一体となった担い手の確保・育成

- 里親制度や信州うえだファームによる新規就農者の確保とともに早期に自立する農業者への支援
 - 就農相談面接会(新規9名)や就農支援セミナーを開催(41名)
 - 新規就農里親研修事業(4名)や農業次世代人材投資事業(準備型4名、経営開始型49名)により、研修や経営確立を支援
- 人・農地プランの実現に向けた関係機関と連携した取組支援
 - プラン実質化の課題・進め方に係る検討会を開催(2回、36名)
 - 担い手への農地集積や規模拡大を支援(利用権設定274ha)
- 定年帰農者や女性農業者等の技術・経営能力向上への支援
 - 女性の能力を発揮した実践活動を支援するため、農村女性のつどいを開催(1回、99名)
 - 中核的経営体の育成として、農業経営サポート事業対象者(13名)の課題解決を支援



【就農支援セミナー】

重点取組2：需給バランスのとれた水田農業と安全安心な農畜産物の生産

- 園芸品目等との複合化及び風さやか等オリジナル品種の普及拡大と実需者ニーズに対応した大豆の産地強化
 - 「風さやか」栽培マニュアル等を活用した現地検討会等(4回、250人)や、大豆の生産性と品質のレベルアップのための現地指導会を開催(2回、25人)
- 地域のモデルとなる国際水準GAP取得希望者への支援
 - JGAP等の取得を志す生産者へ個別に支援を図るとともに、農産物直売所等を対象にした研修会を開催(2回)
- 農場HACCPや畜産GAP等の取組への支援
 - 農場HACCPの維持、改善に向けて、検討会等を開催(3農場)
 - CSF(豚熱)対策として、養豚農場への電気柵・防鳥ネット等の導入支援をはじめ、飼養豚ワクチン接種や野生イノシシへの経口ワクチン散布を実施



【経口ワクチン散布】

重点取組3：消費者や実需者に信頼される園芸産地の確立

- ブロッコリーやアスパラガスの省力化及び品質向上のための雨よけ・かん水施設等の導入推進
 - アスパラガスの茎枯病対策や長期どり推進のため、現地指導会(3会場53名)や研修会(延べ66名)を開催したほか、雨よけハウスの導入(56a)を支援
 - 気候に適した病害虫に強いブロッコリー品種(5品種)の選定試験ほ場を設置し、候補となる1品種を選定

○ ナガノパープル、シャインマスカット等の品質向上対策の普及推進

- ナガノパープル、シャインマスカットの裂果対策講習会(4会場、計100名)や、クイーンルージュ®の定植講習会と品種検討会(計4回)を開催
- シナノリップの収穫前の栽培管理講習会を開催(1回)



【シナノリップ夏期管理講習会】

○ 防ひょうネット等の導入推進による自然災害に強い園芸産地づくりへの誘導

- 防ひょうネットの果実への影響を確認するための調査を実施
- 令和元年東日本台風の被災農業者の営農再開に向け、経営相談や国庫・県単事業による農業用施設の再建、農業用機械の修繕等を支援

重点取組4：食の地消地産と農産物直売所の機能強化

○ 農産物直売所間の連携を活かした物流や販売等の機能強化

- 直売所運営実態調査(10直売所)及び顧客アンケート調査(8直売所、237名)を実施
- 加工直売業者・6次産業化取組事業者を対象に食品表示・HACCP研修会を開催(15名)

○ 伝統的な食文化の継承や農業体験を通じた食育の推進

- 「おいしい信州ふード」フェア(参加6店舗)を開催し、発酵食品(甘酒スイーツ)をPR
- 小学生のばれいしょ植付け・収穫(2回)、田植え・収穫(2回)の作業体験を支援



【甘酒スイーツフェア】

重点取組5：多様な農業生産活動や農村の暮らしを支える基盤づくり

○ 地域のニーズに応じた農地の条件整備

- ワイン用ぶどうの生産拡大のため、農地中間管理事業を活用した農地集積や農地の条件整備を実施(2地区)

○ 少雨地域における農業用水の安定供給

- 農業用水の安定供給維持のため、農業水利施設の機能保全計画の策定や対策工事を実施(計画策定6地区、対策工事7地区)



【ワイン用ぶどう団地の整備】

○ ため池の耐震対策などハード・ソフト一体となった防災減災対策の推進

- ため池の計画的な耐震化工事の推進(8地区)とハザードマップ策定を支援(3地区)
- 令和元年東日本台風で被災した農地・農業用施設の復旧支援並びに洪水被害の恐れがある農業用水路(3地区)の防災対策を推進

重点取組6：特色ある地域資源を活かした農村の活性化

○ 農村の有する多面的機能を支える地域ぐるみの共同活動への支援

- 多面的機能支払交付金や中山間地域農業直接支払交付金を活用した農地や農業用水等の維持・保全に取り組む組織の支援(多面的38組織、中山間86集落協定)
- 棚田保全のために行う都市農村交流活動等への支援(1組織)

○ ため池や棚田などの農業資産を観光資源や教育教材として活用する取組を支援

- ため池、農業用水や農村文化などを素材とした動画を作成し、農業資産の魅力を発信(4か所)

○ 連絡協議会と連携した千曲川ワインバレー構想の推進

- 新規ワインぶどう生産者への接木講習会を開催(5名)
- 生産者のワイン用ぶどうの新植に併せて、産地パワーアップ事業により果樹棚の資材導入を支援(2取組主体)



【稲倉 棚田でキャンプ】

(3) 諏訪地域 ～高い標高、高い品質、高い志が育む諏訪の農業～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	中核的経営体数	519 経営体	538 経営体	591 経営体	569 経営体
	45歳未満の新規就農者(単年度)	13人	14人	11人	14人
2	セルリー出荷数量	9,000 t	9,000 t	7,888 t	9,000 t
	トルコギキョウの出荷本数	3,040 千本	3,160 千本	2,792 千本	3,300 千本
	重要な用排水施設の整備延長	36.8km	40.0km	40.0km	41.1km
3	一等米比率の向上	95%	96%	96%	98%
	個別施設計画(農業水利施設)の策定延長	0km	65.0km	65.1km	75.2km
4	環境にやさしい農産物認証取組面積	80ha	88ha	100.4ha	100ha
	国際水準GAPの取得件数	1件	1件	3件	3件
5	直売所売上額	17億円	18.5億円	26億円	20億円
	6次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	7件	8件	7件	10件
6	集落等が地域ぐるみで取り組む保全活動面積	2,690ha	2,792ha	2,758ha	2,945ha
	農業用水を利用した小水力発電箇所数	1か所	3か所	4か所	3か所
	新たに観光資源として活用した農業施設数	0か所	1か所	3か所	2か所

重点取組1：新規就農者の確実な定着と多様な担い手の中核的経営体への誘導

- 人・農地プランの充実及び関連支援策の推進による担い手の育成
 - プラン実質化に向け、各市町村の取組状況確認と情報共有を実施(会議1回、個別相談随時)
- 就農支援連絡会を中心とした新規就農者の確保・育成策の推進
 - 就農支援連絡会(2回)により、市町村・JA等関係機関と情報を共有
 - 里親研修生集合研修(3回)により就農に向けた基礎知識等の習得を支援
- 諏訪ブランド農産物の生産を支える担い手育成体制の確立
 - 重点対象7名に対し、定期巡回・ほ場視察等により個別課題解決を支援
 - 新規就農者激励会・青年農業者交流会(各1回)により仲間づくりの場を設置



【重点対象者のほ場視察】

重点取組2：諏訪ブランド農産物の安定生産による稼ぐ園芸農業の推進

- 高温期における野菜の生産安定対策の推進
 - セルリー芯なし症状の原因究明のため、育苗期からの温度変化に着目した試験を実施
 - いちご「サマーリリカル(長・野53号)」のランナー発生特性調査を2か所で実施
- ブロッコリーの生産拡大と作柄安定対策
 - 病害虫の早期発見・判定のための早見表を作成し、作付指導会等で活用
 - テンサイシストセンチュウについて、防除後の作付再開112ほ場のフォローアップ調査・新規発生ほ場の防除支援・技術相談を実施
- トルコギキョウ等の花き品質の高位平準化
 - トルコギキョウ立枯症状に対する土壌消毒試験ほを1か所設置し、効果を確認
 - キク等に対するくん煙剤試験ほを1か所設置し、防除効果やその後の発生経過を確認



【トルコギキョウ土壌消毒試験】

- 基幹的農業水利施設の計画的な整備、更新と適切な保安全管理
- 「大河原堰」の要改修区間の改修工事を実施（実施延長 L=0.6km）
- 「大河原堰」の機能診断と機能保全計画策定を実施（実施延長 L=14.5km）

重点取組3：諏訪地域の立地条件に適した特徴的な農畜産物の生産振興

- 水稲・そば等の土地利用型作物の生産安定と品質向上
- 難防除雑草シズイについて除草剤の効果確認とともに生育特性を把握
- 畜産経営の安定化支援と安全安心な生産を行う体制の整備
- 酪農経営1農場でファームノートを試用し、繁殖成績改善への実用性を検討
- 特定家畜伝染病防疫演習を1回開催し、基本的な防疫業務を確認
- 中山間地域における老朽化が著しい農業用施設の整備・更新と保安全管理
- 農業水利施設の個別施設計画を策定（5路線、策定延長 L=14.5Km）



【CSF（豚熱）防疫演習】

重点取組4：諏訪湖の創生につながる環境にやさしい農業の更なる推進

- 輪作体系の活用やオリジナル肥料の導入などの普及等による減肥の取組拡大
- セルリー肥効調節型肥料における肥効効率改良版肥料の検討を3か所で実施
- 主要品目を対象とした環境にやさしい病害虫防除技術の確立
- フェロモントラップを7か所（果樹2・野菜3・花き2）設置し、関係機関や農業者に情報を提供
- 信州の環境にやさしい農産物認証やエコファーマー等の取得支援
- 信州の環境にやさしい農産物認証の取得を支援（個人17件・団体3件 認証面積100.4ha）



【フェロモントラップの調査】

重点取組5：諏訪の「食」と「農」をつなぐ地消地産の推進

- 児童・生徒への食育・花育による諏訪農業への理解促進
- 小学生を対象とした農作業体験作文・図画コンクール（1回）及び諏訪産花きを利用したアレンジメント教室（3回）を実施
- 消費者ニーズに応えた農産物直売所の魅力・資質向上の支援
- 直売所における農畜産物の販売品目・販売額等の現状調査を実施
- 農産物直売所マップを作成し、市町村と各直売所等へ配布

重点取組6：みんなが生き生きと暮らす魅力ある農村づくり

- 多様な人材の育成による美しい農村環境の維持・創造
- 中山間地域農業直接支払事業（48集落）や多面的機能支払事業（43組織）により共同活動を支援
- 歴史ある農業施設等の観光資源への活用
- ちの観光まちづくり推進機構と連携し、「ちの旅」のメニューとなるよう検討を実施



【共同活動（農道の管理）】

(4) 上伊那地域 ～二つのアルプスが輝く 大地と人を育む上伊那の農業・農村～

■達成指標の進捗状況

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	経営の複合化等多様な事業展開に取り組む 集落営農数	12組織	19組織	18組織	20組織
	新規就農者数(45歳未満)	19人/年	21人/年	11人/年	21人/年
2	高密度播種育苗による栽培面積	0 h a	30 h a	86 h a	70 h a
	環境にやさしい農産物認証など付加価値の 高い米生産面積	197.6 h a	241 h a	235 h a	242 h a
	そばの作付面積	922 h a	970 h a	970 h a	1000 h a
3	生乳生産量	20,000 t	20,400 t	17,940 t	21,000 t
	1戸当たり飼養頭数	35.3頭	49頭	50.9頭	55頭
	稲WCSの生産面積	94 h a	97 h a	88.8 h a	100 h a
4	トルコギキョウの栽培面積	9.5 h a	11 h a	11 h a	12 h a
	アスパラガスの新・改植の増加面積 (2 h a/年・累計)	2 h a	4 h a	2.4 h a	10 h a
	ブロッコリーの栽培面積	84 h a	90 h a	82 h a	90 h a
	果樹戦略品種等の栽培面積	59 h a	66 h a	70 h a	82 h a
5	農産物直売所数及び売上総額 (売上高1億円以上)	4か所 1,493百万円	5か所 1,800百万円	5か所 1,697百万円	5か所 1,900百万円
	「おいしい信州ふーど」SHOP登録数	72店舗	80店舗	82店舗	89店舗
6	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・ 発揮するための活動面積	6,876 h a	8,156 h a	6,938 h a	8,625 h a
	野生鳥獣による農作物被害額	75百万円	55百万円	44百万円	52百万円

重点取組1：集落営農の新たな展開と担い手の確保

- 経営の効率化をめざした集落営農組織間におけるヒト・モノのネットワークの構築
 - J Aと連携し、機械共同利用・組織間連携について、集落営農組織に調査を実施し、調査結果に基づき研修会で啓発
- 園芸品目の導入等による多様な集落営農の展開
 - 重点対象集団を中心に巡回、現地指導会により園芸品目の定着を支援
- 関係機関が連携して取り組む相談活動や研修事業等による新規就農者の確保
 - 市町村・J Aとの連携による相談活動の実施(42件)
 - 新規就農実践塾を開催(20回、延べ207名)し基礎知識・技術の習得を支援



【新規就農実践塾】

重点取組2：実需者ニーズに応じた高品質米生産と水田の総合活用による土地利用型農業の推進

- 環境にやさしい農産物認証の取得などによる付加価値の高い米生産の推進
 - 飯島町の特裁米「越百黄金」専用肥料を開発し、次年産に使用する肥料を全面切り替えへ誘導
- 米の所得確保を行うため、ICT技術などによる生産コスト低減・省力化技術の普及・推進
 - 直進機能付き田植え機、自動給水機、水田センサー、RC草刈り機、ドローン、収量コンバイン、ロボットトラクターを導入し省力効果の実証及び余剰労働力による白ネギ等の園芸品目の拡大による収益の向上効果を実証。また、周囲への波及を目的に実演会を開催(3回)
- そばの地域ブランドの確立に向けた取組の推進
 - 辰野町の川島そばプロジェクトで、施肥改善効果試験、二期作試験に取り組み、施肥改善効果を確認
- 農作業の効率化を実現するための生産基盤の整備と農業水利施設等の長寿命化対策
 - 経営体育成基盤整備事業によるほ場整備の実施(1地区)及び、県営かんがい排水事業による老朽化した施設の更新整備を実施(3地区)



【ICT実演会】



【春富6号地区水路改修後】

重点取組3：豊富な自給飼料を基盤とした国際競争力をもつ酪農経営の展開

- 発情発見システムなど酪農ICT技術の導入による生産効率の向上
 - 県のICT機器のお試し事業を実施した農家（2戸）と、情報提供した農家（1戸）でICT機器を導入
- 支援事業や遊休畜舎活用等による経営規模拡大と若手酪農家の定着支援
 - 後継者のいる酪農家（2戸）において、クラスター事業を活用して施設整備等により規模拡大を支援
- 防疫措置の徹底による家畜伝染病発生の未然防止
 - 畜産農家への立入検査により飼養衛生管理基準遵守を徹底及び防疫演習の開催（1回）により防疫体制を強化



【家畜防疫演習】

重点取組4：河岸段丘など恵まれた環境を活かした園芸作物の生産振興

- トルコギキョウの生産拡大に向け、切り花ロス低減への取組を推進するとともに、新たに集落営農組織への導入を推進
 - 土壌病害対策の取組として、土壌くん蒸消毒現地検討会を開催（生産者35名出席）し、防除効果について検討。令和2年度作付に向けて、新たに土壌消毒を実施予定
- アスパラガスの施設化と排水対策の推進による単収向上と担い手確保による産地の維持
 - 優良な苗生産のため、従来の1年養成株、ポット苗、セル苗の比較検討試験ほを設置し生育調査等を実施（1か所、3回）
- 露地野菜の輪作品目としてブロッコリーの春から秋までの長期栽培による生産拡大
 - 根こぶ病の発病可能性評価方法の検討（2回）を行い、早期発見や発病程度に応じた対策への活用の可能性に目途。次年度継続試験を実施予定
 - 花蕾腐敗の原因病害の把握と発生消長調査（3か所）を実施し、JA上伊那を通じて生産者へ防除情報を発信
- りんご高密度植栽培やなし樹体ジョイント栽培等による高品質・低コスト技術の推進
 - 各関係機関と連携して各種講習会（摘果、適期収穫、剪定、現地検討会等）を開催し、新技術の定着を支援



【ブロッコリー生産振興大会】

重点取組5：食農教育の充実と多品目の農産物を最大限に活用した地消地産の実現

- 地域や産地の魅力を伝える産地交流活動や、「おいしい信州ふード」・地域農産物の情報発信などによる地消地産の推進
 - おいしい信州ふードフェアで料理教室やスタンプラリーを実施し、伊那谷ガレットの定着に向けPRを実施
- 地域農業への理解を深める食農教育の推進と人材育成
 - 地域の農産物の魅力や食の大切さを伝えるため、小学校で食育講座を開催（2回）
- 地域活性化や消費者ニーズに応える農産物直売所の機能強化
 - 食品表示法改正に伴う食品表示の速やかな切り替えに向け、農産物直売所関係者等を対象に、食品表示セミナーを開催（1回）



【ガレット教室】

重点取組6：二つのアルプスに囲まれた快適な農村環境の創造

- 住民自らが行う地域ぐるみの野生鳥獣被害対策の実施
 - サルの生態や追い払いに関する研修会の開催（3地区計4回）
- リニア新幹線等の交通網整備を見据えた農村環境の維持・形成、農家民宿・農家民泊の推進による都市農村交流の活性化
 - 上伊那の農村地域の振興を女性ならではの視点から捉え、魅力ある人材の育成や積極的な情報発信を推進するため、「夢あるくらし×しごと シンポジウム」を開催（参加者約90名）
- 豪雨や地震による災害を未然に防止するための、老朽ため池や水路、跨道橋等の耐震補強・改修
 - 県営農業農村地域防災減災事業によるため池、水路等の改修、調査設計を実施（5地区）、及び高速道路を跨ぐ水路橋の耐震補強工事、調査設計を実施（5地区）



【夢あるくらし×しごとシンポジウム】

(5) 南信州地域 ～豊かさあふれる南信州農業！ 農から始まる新しい交流文化～

■ 達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標年 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	28人	28人	32人	28人
	Iターン就農者数(単年度)	5人	5人	8人	5人
2	柿の栽培面積	517ha	530ha	530ha	542ha
	ぶどう無核大粒品種の栽培面積	21.8ha	23ha	34.4ha	25ha
3	きゅうり・アスパラガス施設面積	32ha	34ha	35.4ha	37ha
	白ねぎ等新品目栽培面積	23ha	25ha	25.7ha	26ha
	信州プレミアム牛肉認定頭数	694頭/年	732頭/年	841頭/年	765頭/年
4	伝統野菜認定数	11種類	13種類	14種類	13種類
	6次産業化総合化事業計画達成件数	1件	2件	3件	4件
5	都市農村交流人口(単年度)	193,755人	204,000人	171,580人	213,900人
	販売金額1億円以上の農産物直売所数	7か所	7か所	8か所	8か所
6	計画期間中に整備する重要な農業水利施設の整備箇所数	—	1か所	1か所	6か所
	多面的機能及び中山間直接支払取組面積	2,751ha	2,793ha	2,557ha	2,993ha

重点取組1：南信州農業の次代を担う人材の確保・育成

- 県、市町村、JAと連携し相談活動や研修事業等の充実による担い手確保の強化
 - 就農作戦会議を開催(全体1回 地区別4回)し、新規就農者の受入に対する課題の検討
- 各種セミナー、研修会による新規就農者や中核的経営体の資質向上
 - 新規就農者を育成するため、スキルアップセミナー 基礎講座(11回、延べ176人) 専門講座(対象品目：きゅうり、トマト、11回 延べ70人)の開催
- 県農業大学校研修事業の南信州での実施や帰農塾等によるUIターン含む定年帰農者への支援の充実
 - 定年帰農者等の農産物販売を促すため、帰農塾(基礎コース・専門コース 6コース、計34回、延べ234人受講)
 - 南信州地域への移住定住等を目的に「農ある暮らし入門研修」を5～10月に7回、各回2日間実施し、延べ242人受講



【スキルアップセミナー
トマトコース】

重点取組2：新技術や新品種拡大による競争力の強い果樹産地づくり

- シナノリップなどりんごの新品種を含めた県オリジナル品種の戦略的拡大
 - 8月7日にシナノリップの検討会を開催(約40名参加)し、本年の適期収穫について指導 果実品質の評価は高かったが、収量性などの課題が残った
- 市田柿の生産拡大と「市田柿+α」複合経営の推進
 - せん定講習会(5回)、摘果講習会(3回)実施。延べ300人余の生産者が参加し生産拡大と品質向上を図った
- シャインマスカットやナガノパープル等無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化
 - JA生産部会や下伊那園協の生産者らを対象に新梢管理や果実肥大と品質の向上を目的とした房づくり講習会を実施(2回)



【シャインマスカットの
新梢管理講習会】

重点取組3：マーケットインの複合産地の構築

- きゅうり・アスパラガスの施設化の推進
 - 栽培講習会(5回)などを通じて雨よけ施設導入を啓発(施設等の面積が前年から80a増加)

- ダリア等 200 種類以上の多品目花き生産への支援
 - ダリアのウイルス、ウイロイド対策のため、J A と連携して、23 検体の P C R 検査を実施し、すべて陰性と診断され、母株として使用できることを確認
- 信州プレミアム牛肉・銘柄豚など畜産物の生産拡大
 - 信州あんしん農産物[牛肉]生産認定農場(36 戸)の衛生管理指導及び養豚農場(9 戸)の慢性疾病対策による損耗防止対策を実施
 - 育種価の繁殖牛飼養農家等への提供と繁殖検診(30 回)の実施
- I C T 等新技術の導入検討
 - タブレット端末を利用して I C T によるスマート農業技術等の情報収集を行うとともに、水田センサー、果実非破壊糖度計、牛分娩監視システムを農業者に貸付ける「お試し導入」を実施



【酪農 ICT(受胎状況等を確認するための ICT 装置ファームノートカラーを首に装着した乳牛)】

重点取組 4 : 稼ぐ農業ビジネスに向けた高付加価値化の推進

- シードルなど新たな地域特産品の開発の推進と消費の拡大
 - 長野ワインフェス in NAGOYA に出店(4 社11銘柄)PR 及びアンケート(118人)を実施
 - 南信州シードルウィークを開催し消費拡大を図った(48 店参加)
 - リーフレット“南信州でシードルを飲める店・買える店ガイド”の作成・配布
- 輸出を志向する取組や認証取得等高付加価値販売をめざす取組への支援
 - A S I A G A P 認証を 2 経営体、J G A P 認証を 1 経営体が希望し、その帳票作成、農場指導し取得を支援
 - 農業青年クラブ等で研修会を開催したほか、個別巡回による啓発活動を行い、G A P の普及拡大を推進
- 食品産業との連携への支援
 - 「南信州うまいもの商談会(飯田産業センター・名古屋国際センター)」を開催し、管内の農産物や加工品を食品企業とのマッチングを支援(51 社参加)



【長野ワインフェス in NAGOYA】

重点取組 5 : 食育の推進と交流を通じた地消地産の拡大

- 小学生や未就学児との農業体験会の開催など教育現場との協働による食育の強化
 - 松川町、阿智村、高森町の 3 校で干し柿作りや市田柿を使ったおやつ作りの食育授業(市田柿出前教室)を実施
 - 阿智村で親子(8 組:16 名)を対象に野菜と大豆の食育活動を支援
- 交流人口増加を見据えた地元農畜産物の P R と「観光+農業」の推進
 - 活動実績のある「この指とまれ・つながり逢いの会」とゲストハウスや飲食店のオーナーとの意見交換会を開催し、連携することで生まれる新たなグリーンツーリズム活動について確認
- 地元民俗芸能と食文化、地域食材等を融合させる「食」を介した交流の促進
 - 伝統野菜の情報交換会を開催し、意見交換や試食を通じ調理師と生産者の交流を促進(68 人参加)



【野菜の作付による農業体験】

重点取組 6 : 農を基軸とした多様で豊かな地域づくり

- 農村の持つ多面的機能の維持と小水力発電など地域資源の活用促進
 - 市町村と連携し、本年度に活動計画の最終年を迎える組織へ、次期の活動継続を推奨、組織の広域化による事務負担軽減に向けた P R などを支援
- 農業用施設の長寿命化や農村の防災減災対策の推進
 - 竜西一貫水路の幹線水路補修工事(飯田市 2 か所、高森町 1 か所)及び竜東一貫水路の幹線水路補修・更新工事を R 1 ~ 2 継続施工中



【竜東一貫水路(虻川サイフォン)】

(6) 木曾地域 ～木曾らしく、農業の個性を高め、伝統食で人をつなぐ～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	新規就農者数(45歳未満・期間の累計)	8人	10人	9人	10人
	定年等帰農者の数(期間の累計)	6人	6人	6人	15人
2	御嶽はくさい出荷量	38.3万c/s	40万c/s	32.6万c/s	40万c/s
	御嶽はくさい出荷額	4億6千万円	5億3千万円	4億2千万円	5億3千万円
	1戸当たり子牛出荷頭数	5.47頭	5.7頭	5.9頭	6.0頭
3	販売額1千万円以上の園芸品目	8品目	8品目	5品目	9品目
	米の1等米比率	63%	84%	87%	90%
4	GIすんきの製造量	0(37.7※)t	44t	31t	50t
	6次産業による商品化数	7	9	5	12
5	野生鳥獣による農作物被害額	17,271千円	15,200千円	12,652千円	12,000千円
	荒廃農地の解消面積	22ha	40ha	7ha	40ha
	中山間地域農業直接支払事業による農地等 保全活動面積	389ha	389ha	389ha	389ha
	地域ぐるみで取り組む多面的機能支払事業 の活動面積	346ha	346ha	271ha	346ha
6	生産性を高める農地の条件整備	814ha	814ha	815ha	829ha
	農業用水を活用した小水力発電設備容量	2.4kw	2.4kw	2.4kw	90kw
	新たに観光資源として整備する農業施設数	—	1か所	1か所	2か所

※2016年にGI登録されたことを想定した場合の推定製造量

重点取組1：木曾農業を支える経営体と人材の確保・育成

○ 就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進等

- 就農希望者確保のため、町村・JAと就農相談会に参加(3回)
- 木曾農業の情報発信のため、県の東京・名古屋・大阪事務所及び管内スキー場において就農促進リーフレットを配布(4か所)

○ 里親支援事業、農業次世代人材投資事業等を活用した新規就農者の育成

- 新規就農里親研修を実施し、畜産農家として必要な飼養管理技術の習得及び家族経営協定の作成、並びに就農支援会議による農地確保を含めた総合的なフォローアップを実施(R2年4月から就農者1人4回支援)

○ 農業入門講座(基礎・実践)の開催による定年帰農等の支援

- 定年帰農者等を対象に農業入門講座を開催し就農に必要な技術習得を支援(基礎講座5回、実践講座8回、現地視察1回 延べ68人受講)



【農業入門講座】

重点取組2：木曾農業ブランド「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興

○ 御嶽はくさい農家の経営安定指導

- 基幹的農業経営者の技術向上のため、炭疽病等病害虫防除指導、作溝爪による湿害回避対策試験及び映像を活用した収穫作業工程の改善を実施(5人)
- 夏季の所得安定のため、複合品目としてサヤインゲンの試作を支援(1人)

○ 御嶽はくさいの品質向上と適正生産及び代替品目の検討

- 生産者の病害虫防除技術向上のため、病害虫等防除講座を開催(合計8回)
- コナガの効果的防除のため、フェロモントラップ調査による発生消長の情報を生産者に伝達し、効率的防除を支援



【御嶽はくさいフェロモントラップ設置ほ場】

○ 新規就農者等支援による子牛出荷頭数確保

- 若手畜産農家の経営安定のため、牛舎増築のための経営相談を実施し資金等の借入計画の作成を支援(1人)

重点取組3：特色ある「稼げる農業」の推進

- 消費者ニーズに基づく推進品目及び経営モデルの検討
 - 推進品目の栽培拡大のため、サトイモでは高圧洗浄機による省力化の検証、赤かぶでは修正したマニュアルによる栽培・保存試験の実施、えごまでは移植・摘心等比較試験を実施
- 農産物直売所、農産加工施設の経営改善と人材育成
 - 加工施設等を対象に、食品表示基準改正に伴う研修会（1回46人）、衛生管理技術向上のためのHACCP研修を開催（1回24人）
- 病害虫防除等栽培管理の徹底と米穀乾燥調製施設の機能強化による1等米比率向上
 - カメムシの適期防除のため、昨年の調査結果をもとに作成した防除資料を水稻指導会で周知、畦畔の適期草刈りを実施したほ場を調査し斑点米の減少効果を確認
 - 斑点米選別機能強化のため、産地パワーアップ事業を活用しライスセンター（木曾町）を整備

重点取組4：木曾の本物を味わう食と食し方の提供

- すんきブランド推進協議会による品質管理体制の整備
 - GIブランドの維持のため、生産行程管理業務規程に基づく漬込前研修会、生産施設の巡回指導及び品質評価会を町村等関係機関と支援（27件、評価会1回）
- 木曾ならではの商品振興及び観光と連携した地域活性化
 - 観光と連携した「そば切発祥の地」のそば打ち体験イベント（2回）、木曾牛キャンペーン（1回13団体）及びイワナをテーマにした「おいしい信州フードフェア」を実施（1回5店舗、SHOP登録2件）

重点取組5：住民参加による元気な村づくり

- 捕獲・防除・環境整備を組み合わせた野生鳥獣被害対策支援
 - 改良長野式電気柵の試験設置（1か所）と、防除対策講習会を実施（2回）
 - 電気柵の適正な管理のため管理者へ機能点検方法を指導（13か所）
- 荒廃農地解消の取組支援
 - 荒廃農地解消のため、エゴマ、サトイモ、赤かぶ、ヒペリカム等のモデル導入試験及びモデルほ場を設置し指導会等を町村・JAと協力し実施（6品目5町村）
- 中山間地域農業直接支払制度による農地等保全の取組支援とPR
 - 協定集落の活動支援のため、協定活動への助言、適正な事務処理の指導を実施（5回）
 - 共同作業省力化の情報提供のため、無線草刈り機の実演会を開催（106人1回）
- 多面的機能支払制度による農地・水路等の保全活動組織への支援とPR
 - 制度の周知、維持及び拡大のため、現地ヒヤリング・研修会による制度説明を実施（4回）
 - 管内で活動する協定組織の優れた事例を関東農政局長表彰に推薦（1団体）
 - 事務手続きに関する研修会、水路等の維持補修に関する講習会を開催（6回）

重点取組6：元気な村づくりのための農地の条件整備と農村資源の活用

- 中山間地のほ場・用排水路・農道整備
 - 中山間総合整備事業等により上松町野尻のほ場整備部分完了、徳原工区A=3.8haのほ場整備設計完了、並びに木祖村小木曾の農業用水路L=930m、菅の農道L=920mの整備が完了
- 小水力発電施設の整備及び技術的支援
 - 南木曾町の小水力発電施設整備に向けた設計内容の技術的支援を実施、また中山間総合整備事業では、上松町吉野工区の調査・測量、施設の実設計計を実施、併せて南木曾町細野洞地区の施工にあたっての技術的支援を実施
- 農業資産等を観光資源として活用するための案内看板や遊歩道の整備
 - 木祖村（あやめ公園池）の遊歩道整備について地元要望の把握



【上松町 野尻工区】

(7) 松本地域 ～豊かな水と大地の力を結集！ 未来につなぐ松本農業～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数	28人	45人	21人	45人
	中核的経営体の数	1,725経営体	1,798経営体	1,880経営体	1,906経営体
	法人経営体の数	132経営体	152経営体	147経営体	155経営体
2	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	—	0か所	0か所	3か所
	農地基盤整備及び水田汎用化面積	126ha	148ha	148ha	184ha
	中核経営体への農地の集積率	47.8%	55%	49.4%	65%
3	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積	329ha	593ha	678ha	738ha
	りんご高密度植栽培・新しい化栽培面積	75ha	90ha	90ha	150ha
	自給飼料の栽培面積	446ha	470ha	476ha	480ha
4	売上高1億円以上の農産物直売所の数	12施設	13施設	12施設	14施設
	おいしい信州ふードSHOP登録数	208施設	232施設	212施設	256施設
	学校給食における県産食材の利用割合	51.2%	52.0%	51.0%	54.0%
5	地域ぐるみで取組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	8,814ha	10,515ha	10,613ha	11,278ha
	野生鳥獣による農業被害の減少額	273万円/年	500万円/年	284万円/年	500万円/年
	農地等の安全確保面積	115ha	361ha	326ha	516ha

重点取組1：松本地域の農業を担う新規就農者の確保と経営体の育成

- 新規就農者の確保、栽培技術・経営管理の習得等による育成と地域への定着を支援
 - 里親研修生に対する巡回（6回）と、里親・研修生の研修会を各1回開催。また、就農計画の作成支援を実施
 - 地域への定着に向けたアグリマスターセミナーを13回開催
- 「人・農地プラン」の推進や担い手を対象とした支援策の活用等により、認定農業者、集落営農組織等中核的経営体の確保・育成と経営の安定・発展を支援
 - 49の人・農地プランに対し、地域支援チームによる実質化に向けた取組の誘導等を実施
- 地域農業をけん引する経営体や集落営農組織について法人化と経営力強化を支援
 - 法人化を志向する集落営農組織等への相談活動を進め、1件の法人化を支援



【アグリマスターセミナー】

重点取組2：農地や水路など農業基盤の整備と農地利用の集積・集約

- 営農効率を高めるため、農地区画の大型化や水田の汎用化等の基盤整備を推進
 - 11地区において補助事業を活用し、農地の大区画化や畑地かんがい施設の更新整備により、担い手農家への農地集積を加速化
- 人・農地プランの実現に向けて、農地中間管理事業等による中核経営体への農地利用の集積・集約を促進
 - 農地中間管理事業の重点区域11地区に対する支援チームによる支援のほか、新たな重点区域への支援を2回実施

重点取組 3：消費者・実需者が求める農産物の総合供給産地の確立

- 風さやか、信州ひすいそば、ホワイトファイバー等県育成品種の生産拡大と品質向上を支援
 - 風さやかの品質向上・作付拡大のため、専用肥料を用いた標準施肥展示ほ場 2 か所を設置、信州ひすいそば等の品質向上の研修会・情報交換会等を 4 回実施
- りんご高密度植栽培・新しい化栽培の拡大とともに県育成品種の生産拡大を支援
 - りんご高密度植栽培・新しい化栽培のモデルほ場等 7 か所において樹体及び収穫量の調査を実施し、調査結果の報告会を 1 回開催
- 畜産経営の体質強化のため、県育成等優良品種による自給飼料の増産を推進
 - 自給飼料共励会への参加支援や県育成優良品種等の展示ほ場 4 か所を設置
- ICT や機械収穫など新技術の導入検討と普及
 - スマート農業機器の実証ほ場を 3 か所設置し、実演会の開催と効率等を調査



【りんご高密度植栽培検討会】



【ラジコン式畦畔除草機実演会】

- 農産物の安全・安心の徹底や経営効率の向上等に向けた、生産工程の管理や改善を推進
 - 2 つのモデル法人で、トヨタ式カイゼン手法に基づいた人材育成・課題解決を支援

重点取組 4：松本地域の食材を活かした地消地産や食育活動の推進

- 農産物直売所等の品揃えの充実など魅力アップと地域食材に係る情報発信の強化
 - 直売所を対象に栽培管理技術の向上や新品目の提案のための講習会を 3 回開催
- SHOP との連携強化等「おいしい信州ふード」の取組などによる農産物の魅力向上と活用の促進
 - 県産牛肉の消費拡大に向けた、おいしい信州ふードフェア等を 2 回開催
- 学校や給食センター等との連携による給食での地域食材の活用の推進
 - 栄養士等と地域食材の活用拡大の情報交換を 3 回実施



【おいしい信州ふード松本フェア】

重点取組 5：風土豊かな松本地域の農山村の活性化

- 直接支払制度の活用により、用水路等の維持や農産物生産の継続のほか、住民参加による地域活動の活性化を支援
 - 地域住民が共同で取り組む水路や農道等の地域資源の活動（10,613ha）を支援するとともに、中山間地の活動強化として 6 組織に対して支援を実施
- 野生鳥獣による被害軽減のための防護柵の設置・管理など地域ぐるみでの取組を促進
 - 補助事業を活用し、2 村で侵入防止柵の支援や 8 市村で捕獲檻・わなの導入支援のほか、防護柵の設置・管理講習会等の支援を 4 回実施
- ため池の耐震補強・地すべり対策の実施による安全安心な農村生活環境の維持
 - 県営農村地域防災減災事業により、農業用ため池 5 か所の耐震補強を実施



【地元活動組織による畦畔除草作業】

(8) 北アルプス地域 ～「人」と「食」が繋がる北アルプス山麓の農業・農村～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	6人	8人	9人	8人
	中核的経営体数	332経営体	350経営体	352経営体	378経営体
2	水稻の低コスト・省力化技術栽培面積	13ha	130ha	165ha	150ha
	信交酒545号(山恵錦)の栽培面積	0.5ha	19ha	17ha	35ha
	深水管理による酒米の品質向上・契約栽培面積	2ha	3ha	3ha	5ha
3	ワイン用ぶどうの栽培面積	21.6ha	25ha	28.4ha	30ha
	加工・業務用野菜(ジュース用トマト、たまねぎ、キャベツ)の栽培面積	12.2ha	16.5ha	12.7ha	20ha
4	地域特産物(うど、クレソン、にんにく)の栽培面積	1.1ha	2.4ha	1.9ha	6ha
	北アルプス山麓ブランド認定品数	99品	109品	111品	129品
5	「おいしい信州ふード」SHOP登録数	81店舗	90店舗	86店舗	100店舗
	学校給食における県産食材の利用割合	44.3%	45.3%	46.8%	47%
6	共同活動による農地等の保全面積 (多面的機能支払+中山間直払)	3,743ha	3,832ha	3,845ha	3,959ha
	都市農村交流人口(単年度)	25,222人	27,000人	19,035人	27,845人

重点取組1：北アルプス地域の農業を支える担い手の確保・育成

- 人・農地プランに基づく認定農業者、農業法人、新規就農者、地域農業を支える担い手の確保・育成
 - 「人・農地プラン」の策定・見直し・実践の支援(プラン策定済 全29地区(大町市11、池田町1(全域)、松川村11、白馬村3、小谷村3))
 - 新規参入希望者、親元就農者に対する就農支援(就農相談9名)
 - 里親研修生、研修修了者の技術力・経営力の向上支援(里親研修生2名、同修了者13名)
- 経営管理能力の高い企業的感觉を持った経営体の育成
 - 農業経営者総合サポート事業等による経営改善支援(12経営体)
 - JGAP認証取得を志向する経営体に対する生産工程管理の導入支援(4経営体)
- 農地の利用集積による効率的経営に向けた支援
 - 担い手の規模拡大を支援する経営体育成基盤整備事業及び強い農業担い手づくり総合支援交付金(旧担い手確保経営体育成支援事業)の実施(事業説明会の開催 3か所)
 - 観光業等、他産業と連携した労働力調整WG及び、雇用マッチング促進シンポジウムの開催(各1回)
- 農ある暮らしの推進
 - 農ある暮らしサポート直売所(大町市：JA農産物直売所ええっこの里)の運営支援
 - 栽培未経験者を対象とした「農ある暮らしセミナー」や定年帰農講座の開催(各2回)

重点取組2：新技術の活用、高付加価値化、農地整備による競争力の高い水田農業の推進

- 地域に適応した県オリジナル品種(ゆめしなの、風さやか、信交酒545号(山恵錦))の導入
 - 品種特性に応じた栽培技術指導(個別指導、研修会5回)
 - 地域適応性確認のための生育・品質調査(5か所)

○ ICTを活用した生産効率化や高密度播種育苗等低コスト・省力化技術の実証・導入

- 水田センサーを活用した水管理作業省力化の実証（2か所）
- 生産工程管理システムを活用した作業能率最適化の検討（1か所）
- 県スマート農業機械お試し導入事業による水田センサーの効果の検証（全域20か所）



【酒販関係者、消費者による酒米ほ場の見学】

○ 深水管理による酒米等の品質向上及び契約栽培による経営安定

- 酒米品質向上試験の実施（2か所）
- “信州北アルプス日本酒まるわかり体験会”の開催（対象：都内小売酒販店13店舗）による酒米プロジェクトで醸造された日本酒の酒販関係者及び消費者へのPR

○ 次代を見据えた農地の条件整備（区画拡大・用排水路の埋設、自動給水栓設置等）の実施

- 担い手の規模拡大を支援する経営体育成基盤整備事業の工事着手（32.2ha）

重点取組3：実需者ニーズの高い園芸作物の産地づくり

○ ワイン用ぶどう栽培農地の基盤整備と生産安定・高品質化

- 高収益作物への転換を推進するための農地耕作条件改善事業の実施（うちワイン用ぶどう栽培ほ場の造成3.9ha）

○ 水稲複合経営を中心とした加工・業務用野菜（ジュース用トマト、たまねぎ、キャベツ）の導入・生産拡大

- 生産安定及び機械化一貫体系のモデルほ場の設置（3か所）

重点取組4：北アルプス山麓ブランド等を活用した地域振興

○ 北アルプス山麓の立地条件や特色を活かした新たな地域特産物（うど、クレソン、にんにく等）の生産拡大及びブランド認定への誘導

- モデルほ場の設置（クレソン）、現地検討会・講習会の開催（10回）
- 林間地を活用した陸わさびの作付拡大と生産安定対策の推進を図るため、新規造成（3ほ場20a）及び現地指導会の開催（2回）

○ 北アルプス山麓ブランド認定品を含めた北アルプス山麓育ちの農産物の販売促進と誘客ツールとしての活用

- 地域の飲食店等を巡るスタンプラリー（夏～冬、延べ47店舗）や、「北アルプス山麓ブランドB級グルメ」を活用した食育活動の実施（小学校出前教室3校、一般向け教室1回）



【小学四年生を対象とした黒豆コロッケづくり】

重点取組5：多彩な観光資源を活用した食の地消地産と食育の推進

○ 宿泊施設と農家の相互理解による地元農産物の利活用促進と農産物直売所を核とした宿泊施設や学校給食への地元農産物供給体制の構築

- 大町温泉郷観光協会及びJAと連携した食材供給の開始、食の地域循環意見交換会の開催（1回）による農産物直売施設と宿泊施設間の地域内流通モデルの検討

重点取組6：暮らしの場としての農村の振興

○ 農村の多面的機能を維持発揮するための活動や集落コミュニティ共同活動を支援

- 多面的機能支払事業や中山間地域農業直接支払事業の実施による農村集落における地域共同活動等への支援（多面的機能支払3,622ha、中山間直接支払607ha、重複384ha）

○ 集落ぐるみで行う野生鳥獣被害対策への支援

- 鳥獣被害防止総合対策交付金の活用による総合的な取組への支援（侵入防止柵7.5km）

○ 農業水利施設の長寿命化対策により、農業用水の安定供給を図り水田営農を支援

- インフラ長寿命化計画（個別施設計画）の策定支援（地域部会1回、個別施設計画作成研修会1回）

(9) 長野地域 ～未来に夢を！次代へつなごう食と農、地域で築こう元気な農村～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	果樹の新規栽培者数(45歳未満、単年度)	32人	32人	26人	32人
	定年帰農等新規就農者数 (45歳以上65歳未満、単年度)	4人	8人	7人	8人
2	果樹戦略品種等の栽培面積	1,155ha	1,317ha	1,351ha	1,480ha
	りんご高密度植・新しい化の栽培面積	82ha	97ha	104ha	110ha
	生産性を高める樹園地の条件整備面積	396ha	77ha	179ha	414ha
3	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及 面積(米・麦・大豆・そば)	593ha	673ha	601ha	762ha
	農業用水を安定供給する重要な用排水施設 整備箇所数	一か所	2か所	2か所	5か所
4	学校給食における県産食材の利用割合	47.7%	49%	45.8%	51%
	売上高1億円以上の農産物直売所の売上総額	20億円	23億円	21億円	26億円
5	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・ 発揮するための活動面積	4,056ha	4,680ha	4,734ha	5,073ha
	野生鳥獣による農作物被害額	1億1,300万円	1億200万円	9,682万円	9,000万円
6	小水力発電の整備箇所数	2か所	2か所	2か所	3か所
	持続的な営農や農村の暮らしを守る取組面積	74ha	1,324ha	1,528ha	1,958ha

重点取組1：産地を支え未来につなぐ新規就農者や定年帰農者など多様な担い手の確保・育成

○ 新規就農者や定年帰農者等多様な担い手の確保・育成と早期技術習得等の支援

- 就農相談会を長野市で開催(1回)するほか、県外の都市部各地(7か所)で開催し、担い手を誘致(相談数82件)
- 新規就農里親研修を13名が受講し、令和元年度に9名が新規就農
- 農業次世代人材投資事業(準備型)に係る受給希望者を支援(新規9名)
- 新規就農者等を対象にニューファーマー講座や複式農業簿記講座による品目別セミナーを開催し、基礎知識の習得を支援(5セミナー、延べ24回88名参加)
- ICTを活用“稼げる技術”短期習得実践講座「りんご新しい化栽培(高密度植)コース」(9回)、「ぶどう短梢無核栽培コース」(13回)による果樹担い手の強化育成



【ぶどう短梢無核栽培講座】

重点取組2：新品種・新技術の導入や樹園地の継承・集積で発展する競争力の高い果樹産地づくり

○ 省力的で収益性の高い果樹栽培の推進

- 果樹経営支援対策事業を活用した県オリジナル品種の導入とりんご新しい化栽培・高密度植栽培への転換を支援
- りんごオリジナル品種栽培講習会(5会場)、ナガノパープル講習会(4会場)を開催し、収益性の高い果樹栽培の定着を推進
- あんずの収益性を高めるため、凍害低減対策(調査20回、研修会2回)の実施、省力樹形の現地実証ほを設置(1か所)やブランド化(プレミアムハーコット「杏月」)を支援



【あんず「杏月」お披露目会】

○ 畑地かんがい施設の整備など稼げる果樹経営の生産基盤整備

- 稼げる果樹経営に向け県営畑地帯総合土地改良事業等により、管水路、揚水機場等の更新整備を実施(4地区：川田長原、豊野3期[長野市]、松北[小布施町]、日滝原[須坂市])
- 果樹団地の再生整備による高生産性団地の形成に向け、農地中間管理機構等と連携して農地中間管理権を設定し、事業着手(1地区：綿内東町[長野市])

○ 果物の魅力発信と新商品開発の取組支援

- JR東日本グループと連携した「新幹線マルシェ」をJR東京駅で開催し、市町村とともに旬の果物PR及び観光案内を実施（6回12日間）
- 地元果物を使用したスイーツによる情報発信「ながの果物語り Sweets buffet 2nd」をホテルメトロポリタン長野で開催（1回、出展12店舗、参加者190名）
- 長野地域の多様な種類、高い品質の果物等を紹介する春夏版のイメージ動画を製作（1本）



【新幹線マルシェ】

重点取組3：地域の特徴を活かした野菜、花き、穀物等の産地づくりと環境農業の推進

○ 産地づくりに資する基幹的土地改良施設の整備と農地の条件整備

- 農業生産性の向上や農地集積・集約化を促進するため、経営体育成基盤整備事業により担い手や地域の意向を踏まえ農業用排水施設の整備を実施（2地区：仁之倉・穂波 [信濃町]）
- 農産物の安定生産に向け県営かんがい排水事業により幹線水路や揚水機場等の基幹的農業水利施設整備を実施（3地区：小布施 [小布施町]、善光寺平 [長野市]、芋川 [飯綱町]）
- 農産物輸送効率化や品質確保に向け県営農道整備事業により基幹的農道の整備を実施（2地区：信濃幹線 [長野市、飯綱町、信濃町]、須高 [須坂市、小布施町]）

重点取組4：地域資源を活用した食育や地消地産の推進と新たな需要の創出

○ 6次産業化等により経営強化をめざす農業者の取組支援

- 6次産業化、農商工連携の取組を進めるため、専門家派遣等による研修会（4回92名）の開催や農業者等個別相談（19個人、7事業者）により事業化を支援
- 生産者の経営強化を図るため、ながの地域くだものまるごと商談会（1回、売り手23者、買い手30社）や新宿果物専門店の講師による研修会（1回、92名）を開催

重点取組5：皆が訪れ暮らしたくなる農村づくり

○ 農村資源を地域ぐるみで守る農村コミュニティ活動への支援

- 農地の耕作放棄発生を防止し、多面的機能を発揮するため、中山間地域農業直接支払交付金及び多面的機能支払交付金の適切な実施のため、事業制度・事務研修会を開催（4回）

○ 野生鳥獣に負けない集落ぐるみの被害防止活動への支援

- 野生鳥獣被害防止のため、集落における活動の支援（研修会等開催3市町村、4回）
- 鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した侵入防止柵の設置を支援（4市町5地区、設置延長13,270m）



【イシ、シ等侵入防止柵】

重点取組6：活力に満ち安全安心な農村づくり

○ 農村地域の湛水被害を防ぐ施設の整備を推進

- 近年頻発している豪雨災害に対応するため、排水機場の改修を実施（6地区：千曲川沿岸牛島・篠ノ井・塩崎・松代・清野 [長野市]、相之島 [須坂市]）
- 都市化が急速に進み、幹線用排水路への雨水流入量の増大による溢水被害を防止するため、幹線用排水路の改修を実施（3地区：長野4期・北長池 [長野市]、埴科6期 [千曲市]）

○ 地すべり施設の整備やため池等の安全対策の推進

- 老朽化した地すべり防止施設を計画的に補修・更新していくため、地すべり防止区域の各地区で長寿命化計画を策定（14地区）
- 地すべり防止区域において水抜きボーリングや排水路等の地すべり対策工事を実施（4地区：天間芦沢・上河・塩本・松葉 [長野市]）
- 決壊による下流域への被害防止に必要な、ため池の改修を実施（2地区：野下原2号 [須坂市]、川上高坂 [飯綱町]）や地域住民が安全かつ迅速に避難行動するための「ため池ハザードマップ」（長野市、須坂市、千曲市、飯綱町）を作成

(10) 北信地域 ～北信州 つなぎ育む 人・食・農～

■達成指標の進捗状況

重点 取組	達成指標	現状 (2016年)	2019年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	新規就農者数(45歳未満)	34人/年	36人/年	29人/年	36人/年
	中核的経営体数	1,226 経営体	1,256 経営体	1,239 経営体	1,301 経営体
2	良食味米、業務用米等の栽培面積	535ha	623ha	527ha	650ha
	果樹戦略品種等の栽培面積	253ha	314ha	366ha	460ha
3	アスパラガスの新植・改植面積	89ha	113ha	111ha	135ha
	シャクヤクの栽培面積	53ha	57.7ha	52.9ha	60ha
4	基幹水利施設(重要構造物)の整備箇所数	— 箇所	8箇所	1箇所	13箇所
	畑地かんがい施設整備(再整備)面積	— ha	50ha	95ha	200ha
5	「おいしい信州ふード」SHOP登録数	91店舗	102店舗	96店舗	112店舗
	農産物直売所の販売額	15.6億円	16.7億円	17.4億円	17億円
6	多面的機能を維持発揮するための活動面積	3,503ha	3,559ha	3,824ha	3,639ha
	新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	— 箇所	1箇所	1箇所	2箇所

重点取組1：経営向上をめざす優れた担い手の育成

- 「北信州農業道場」等による新規就農者の育成と多様な担い手の確保
 - 里親研修制度(1名)や農業次世代人材投資事業(準備型1名、経営開始型4市町村(23名))を活用した就農支援と就農後の経営安定に向けた支援
 - 北信州農業道場の品目別(ぶどう、アスパラガス)2コース(57名)、・選択制講座3講座(168名)や「北信州農村女性のつどい」(参加者192名)などを開催
- 中核的経営体の確保と「カイゼン」等による生産性の向上
 - 重点指導農業者(15名)ごとに、県・市町村・JAによる「支援チーム」で支援を実施。また、経営改善等を目的に農業経営勉強会を開催(1回)
- 多様な雇用労力の安定的確保
 - 農福連携による障がい者雇用企業(2社)の農業生産活動等を支援
 - 山ノ内町とボランティア事業「プチ援農」を開催(2回、55名)
- 農地の利用集積(農地中間管理事業の活用)による規模拡大の促進
 - 人・農地プラン実質化を支援し(市町村巡回12回)、農地中間管理事業の農地集積(75ha)に合わせて、強い農業・担い手づくり総合支援事業等により、農業機械・施設の導入を支援(5経営体)



【アスパラガス講座】

重点取組2：米・果樹・きのこ 市場競争力のある強い産地づくり

- 需要に応じた米生産を基本に、良食味米や業務用米・酒米の生産拡大と収益性の高い米生産を推進
 - 品質の高い米づくりのため、斑点米カメムシ防除実証ほを設置(1箇所)し、加害種の生態などを解明。また、「信州の環境にやさしい農産物認証」の申請を支援
 - 業務用米の実証ほを設置(3箇所)し、栽培指針(暫定版)を作成
 - 酒米は、地域ブランド酒開発のため、酒造業者と意見交換会を開催(1回)
- 収益性の高い効率的な果樹経営と高品質な果実づくりを推進
 - 主要品目について、栽培講習会等を開催(ぶどう4回、すもも2回)
 - 産地パワーアップ事業等により、果樹棚・冷蔵庫・加温機等の導入を支援(15ha、98件)
 - 東日本台風の被災農家に対し、情報提供と技術対策指導をはじめ、事業を活用した樹園地の排土、浸水機械の再整備、緊急防除薬剤・苗木の購入等を支援
- きのこと経営管理力の強化、JGAP等安全・安心・環境対策を支援
 - ロス率低減対策等のための現地巡回や調査を実施
 - 使用済み培地の利活用推進のため、資源化技術セミナー(1回)を開催



【クイーンズ・ジュ®植付講習会】

重点取組3：野菜・花き・畜産 特色ある多彩な農産物等の生産強化

- アスパラガス産地の再構築と果菜類（ズッキーニ・きゅうり等）を拡大
 - アスパラガスの産地回復のため、土壌病害対策等に関する技術実証ほを設置（8か所）し、研修会等を開催（2回）
- シャクヤクの有利販売と露地花き品目（ソリダゴ・ヒペリカム等）を拡大
 - シャクヤクの早期出荷を図るための施設化（3棟、5.8a）を支援
- 地域ブランドである畜産物の安定生産を支援
 - 畜産法人の経営指導を関係機関と連携して実施（12回）
 - C S F（豚熱）対策として、養豚農家等への消毒液等の配布、電気柵・防鳥ネットの設置等の支援、ワクチン接種、野生イノシシのウィルス検査を実施



【防疫演習】

重点取組4：持続的な農業生産活動を支える基盤整備

- 基幹水利施設の機能を維持するための機能保全計画の策定と整備・更新
 - 機能保全計画に基づき基幹水利施設の長寿命化を図るため、八ヶ郷地区（中野市）減勢工更新工事、夜間瀬剣沢地区（山ノ内町）余水吐補修工事を実施
- 畑・樹園地の収益性を維持し、高めるための畑地かんがい施設の整備・更新
 - 畑地かんがい施設の幹線・支線などの整備・更新が必要な夜間瀬地区、横手畔ノ上地区（山ノ内町）、中野西部地区（中野市）で揚水ポンプ、電動弁等の整備・更新工事を実施
- 担い手への農地集積につながる農地の耕作条件の改良・改善
 - 栄地区（栄村）四ツ廻り工区では、ほ場整備に併せて水管理や草刈りの省力化を図れるパイプライン化及び畦畔の小段設置等の工事を実施



【四ツ廻り工区ほ場整備】

重点取組5：地元「食」の魅力の共有・発信と地消地産の推進

- 「おいしい信州ふーど」・地元農産物の魅力の共有と県内外への発信
 - フェアを開催し、信州の伝統野菜「坂井芋」の特別メニューの提供（8店舗）と、調理法や理解を深めるセミナーを開催（1回）
- 飲食店、ホテル・旅館、学校給食施設等における地元農産物の食材利用・地消地産を促進
 - 地元食材の特別メニューを提供する「アスパラフェア」（31店舗）、「きのこ夏フェア」（26店舗）を開催。また、給食調理関係者を対象に「きのこ夏セミナー」を開催（1回）
- 地元農産物の販売拠点となる農産物直売所の機能強化を支援
 - 直売所機能強化に向けたアンケート調査を実施（35か所）
- 農業者と2次・3次事業者が連携した6次産業化等による農産物の付加価値化を支援
 - 6次産業化に向けた相談活動や農業者・事業者等を対象とした6次産業化セミナーを開催（1回）



【きのこ夏セミナー】

重点取組6：農村が有する多様な資源の維持・活用と農村の活性化

- 農業・農村の多面的機能の維持や農業生産活動の継続に向けた地域ぐるみの共同活動を支援
 - 多面的機能支払事業の共同活動等の継続を支援し、87組織が地域ぐるみの共同活動を実施
 - 中山間地域等直接支払事業により、自律的かつ継続的な農業生産活動を支援（117集落協定、131ha）
- 中山間地に立地する農村の保全（ため池・地すべり防止施設・水路の保全）
 - 栄地区（栄村）、柳原地区（飯山市）では、融雪期に崩落等が多く発生する中山間地の山腹水路の工事を実施
- 荒廃農地の発生防止や再生・活用と野生鳥獣対策を支援
 - 農地の有効利用に向け、農業委員会の活動を支援
 - ハクビシン対策モデル展示ほを設置（1か所）や侵入防止柵整備（3,200m）ほか野生鳥獣被害防止の取組を支援（4市町村）
- 農業資産・農村資源を観光等に活用した農村の活性化を推進
 - 針湖池、北竜湖（飯山市）、巣鷹湖（野沢温泉村）のため池カード作成とスタンプラリーを実施して農業・観光情報を発信



【ため池カード（北竜湖）】

第5章

重点的に取り組む事項の取組実績

1 経営のイノベーション

目標指標	現 状 (2016 年度)	実 績 (2019 年度)	目 標 (2022 年度)
中核的経営体数 (トップランナー数)	8,998 経営体 (1,315 経営体※)	9,693 経営体 (-)	10,000 経営体 (1,500 経営体)
法人経営体数及びその常雇用者数	958 経営体 (6,420 人)	999 経営体 (集計中)	1,080 経営体 (7,170 人)
国際水準GAP認証の取得件数	14 件	45 件	42 件

※2015 年農林業センサス値

(1) 信州農業の魅力発信 (魅せる)

- 若者のあこがれとなる「かつこいい！稼げる！感動を与える！」の新3Kを実践する県下の農業トップランナー11経営体（うち2経営体は農業女子）を紹介するPR動画を活用し、YouTubeへの公開や就農相談会等での上映等、広く情報を発信
- 農業トップランナーの魅力を伝える「中高生のための就農ガイドブック」について、動画にリンクする二次元バーコードを追加した上で増刷（10,000部）し、農業高校等に配付するとともに、就農相談会等でPRを実施

(2) 将来の担い手の育成等 (育てる)

- 県内で活躍する青年農業者等を農業高校に派遣して農業をPRする出前講座（農業の魅力発見セミナー10校、597名）や農家での体験研修（緑の学園研修4校37名が28戸の農家で研修）を実施し、農業に対する理解を深めてもらいながら、農業が職業として選択される環境づくりを推進
- 農業高校生の進路ガイダンス等に出向いて就農ブースを出展し、農業法人経営者から生徒に対して直接、雇用就農の状況を発信するとともに、多様な就農スタイルを紹介し、就農意欲を喚起



【富士見高校での実施風景】



【エクセラン高校での実施風景】

- 農業大学校において、農業法人等合同説明会を開催し、雇用就農を希望する学生と農業法人とのマッチングを推進（農業法人等合同説明会1回、農業法人22社出展、農大生85名、農業高校生22名、八ヶ岳中央農業実践大学校生8名が参加）

- 大学生や専門学校生等を対象として県内外で開催されたインターンシップフェアに参加（3回）し、農業を職業としてイメージしてもらうため、具体的な就農スタイルや就農までのステップを紹介
- 農業女子（県内の若手女性農業者）の経営発展に向けて、県内外で信州産農産物を販売・PRするマルシェ等の企画・実践の取組を支援（10団体）

（3）経営発展支援（応援する）

○ 経営力・経営基盤の拡充

- 最先端技術の導入や自らの経営改善に取り組み、稼ぐ農業を实践する先駆的な農業トップランナーの更なる発展を目的とした研修会を開催し、企業経営者として経営の更なる発展に必要な高度な知識・能力の習得を推進（1回、参加者41名）
- 「農地中間管理事業の推進に向けた関係機関の連携による活動方針（5者合意）」を、「人・農地プランの推進及び農地中間管理事業の活用促進に向けた関係機関の連携に係る活動方針」に改定・拡充し、関係機関の連携強化のもと集積を推進（借入実績923.1ha、前年対比116.2%、新規活用：上松町、木祖村、坂城町）
- 農地整備事業との連携（6市町村7地区で中間管理権を設定：459件、1,518筆、85.7ha）や市町村等との連携による農地中間管理機構活用遊休農地再生事業（1地区、0.26ha）及び農地管理事業（120筆、9.98ha）等の実施により、集積・集約化を推進

○ 雇用人材の確保

- 障がい者の農業分野での就労による労働力確保に向け、県健康福祉部と連携して、福祉事業所と農業経営体とのマッチングを推進（マッチング数：40件）
- 農業への参入を希望する企業、地域の担い手不足や遊休農地の解消等を図る企業参入を求めている市町村等を対象として、企業の農業参入促進研修会を開催（1回、参加者41名）
- J A長野県農業労働力支援センターと連携し、農業専用人材マッチングサイトの開設や特定技能外国人の県内導入を検討
- 農業労働力を補完する仕組みづくりに向け、労働力安定確保研修会を開催（1回、参加者61名）

○ GAPの推進（国際水準GAP認証取得に向けて）

- GAP指導者を養成するとともに国際水準GAPの取組を推進するため、JGAP指導員基礎研修や、GAP指導者スキルアップ研修等を開催
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会への県産食材の供給や輸出の拡大を図るため、国際水準GAP実践拡大事業等によりGAPコンサルタントの導入や認証取得を支援（7件）

○ トヨタ式カイゼン手法の普及・定着による経営改善

- 農業現場のコスト削減や生産性向上を図るため、製造業で実施されている生産工程や労務管理などを改善するトヨタ式手法をモデル法人（2法人）において実践するとともに、農業法人等を対象とした研修会を開催（2回、65名）
- 普及指導員がカイゼン手法を普及現場で活かせるよう、普及指導員研修を開催（座学5回、現地視察1回、報告会2回）するとともに、トヨタ自動車株式会社に普及指導員を1名研修派遣

2 生産のイノベーション

目標指標	現 状 (2016 年度)	実 績 (2019 年度)	目 標 (2022 年)
革新的な農業技術・機械の開発と実用化数	—	2 (試作機)	9

(1) 革新的な技術・機械の開発と実用化

- 労働力不足の解消、経営改善につながるレタスの自動収穫機の開発を目指し、大学や民間企業との連携により研究を進め、高度収穫ロボットと1条収穫機の試作機を製作
- 野菜花き試験場内ほ場において、レタス収穫機（試作機）の性能評価試験を行い、改良・調整を推進
- 軽トラックに楽に搭載でき、女性や高齢者にも使いやすい安全性の高い無線操縦型畦畔草刈機の開発をめざし、大学や民間企業との連携により研究を進め、2種類の試作機を製作
- 現地水田畦畔において、試作機の性能評価試験を行うとともに、重心バランスの調整、ゴム性クローラの導入を行い、斜度 45° 安定走行性を高めた市販化プロトタイプを完成させた



【開発中のレタス収穫機（試作機）】



【開発中の畦畔除草管理機（試作機）】

- 場内ほ場でのレタス収穫機（試作機）の性能評価試験時に、農業機械関連企業やカット野菜協議会関係者を参集し、実演及び意見交換を実施。また、機械収穫に適するほ場環境の設定についても意見交換を実施
- 農機具メーカーやJA全農長野等の専門家の評価を受けるため、水田畦畔除草管理機（試作機）の現地実証試験を現地において開催し、実用化に向けたPRを実施

(2) 信州型イリゲーションシステム[※]の導入による生産性の向上

- 地下かんがいシステム（FOEAS）の導入を促進するため、長野県土地改良事業団体連合会と連携して、農業試験場の実証展示ほ場を設置
- 農業用水路をパイプライン化している地区において、「ICTを活用した自動給水栓」の実証展示ほ場を設置し、農業者や土地改良区等を参集した見学会を開催（参加者 130 名）

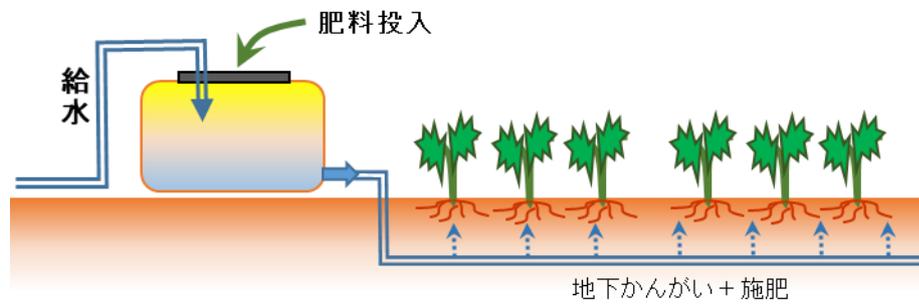


【自動給水栓の見学会】



【ICTを活用した自動給水栓】

- 土壌水分に適応したかん水や効率的な肥培管理等に効果が期待される畑地用地下かんがいシステム（OPSIS）の有効性や実証展示ほ場の設置を検討



【OPSISの概要図】

※イリゲーションシステム

水田や畑地へ農業用水を供給する施設（かんがい施設）

3 マーケティングのイノベーション

ア 園芸県長野の振興

目標指標	現 状 (2016 年度)	実 績 (2019 年度)	目 標 (2022 年度)
果樹戦略品種等の栽培面積	1,884ha	2,390ha	2,826ha

(1) オリジナル品種を核とした果実のマーケティング・イノベーション

○ “種なし・皮ごと” ぶどうのブランド力を強化

- 県産無核ぶどうの市場評価をさらに向上させるため、「ナガノパール」と「シャインマスカット」の2品種について、本年度の生育を踏まえた生産安定技術指導者研修会を開催
- 皮ごと食べられる赤系ぶどう新品種「クイーンルージュ®」の令和4年度に向けた本格市場デビューに向け、初の実需者を対象とした求評会を9月に開催。また、同品種の特性等を周知するために生産者や技術者を対象とした品種検討会を開催



【大田市場求評会の様子】

○ “夏りんご” の導入による県産りんごのフルラインナップ化

- 夏りんご「シナノリップ」の市場評価を高めるため、大田市場における求評会と、新設された豊洲市場における宣伝会を、それぞれ8月に実施
- 長野県永久観光大使 峰 竜太さんのラジオ番組において、新品種「シナノリップ」を起点とした12月までの信州産りんごのフルラインナップ化について8月にPR
- 銀座NAGANOにおいて試食宣伝会を開催するとともに、峰 竜太さんのラジオ番組と連動したプレゼント企画を8月に実施



【大田市場求評会の様子】

○ 高級すももの新ブランドを確立

- すもも「麗玉®」の市場評価を高めるため、初めて関西市場における求評会を9月に開催し、卸・仲卸との意見交換を実施
- 求評会の意見をもとに、シナノパール宣伝用のリーフレットを初めて作成
- すもも「麗玉®」、シナノパールの関西市場への出荷拡大を目指し、宣伝用資材を作成するとともに、大阪市内百貨店において試食宣伝会を9月に実施



【大阪市内百貨店における試食宣伝会】

(2) 新需要創出と先端技術で野菜生産を強化

○ 新たな消費ニーズの創出で葉洋菜産地を強化

- 加工・業務用キャベツの省力生産の実現を図るため、収穫機の現地検討会を開催し、普及に向けた課題検討を実施
- ケール「ハイパール」の単収向上を目指し、栽培上の課題と対策の検討や、現地ほ場視察を行う栽培技術研修会を開催。また、優良事例の発表等を通じて、課題解決を図るための生産者大会を開催
- 長野県と実需者が共同開発した機能性成分を多く含む新たな野菜ラファノブラシカ「長・野48号」検討会を開催

○ 養液・養液土耕栽培や光を使った害虫防除等先端技術で生産を強化

- 高単収、生産安定のための施設化を推進するため、果菜類におけるスマート農業検討会を開催するとともに、スマート農業導入加速化事業による環境モニタリングシステムお試し導入実証ほを設置(きゅうり、いちご・各1か所)
- 信州農業生産力強化対策事業による施設化について、養液(土耕)栽培設備2件(きゅうり、アスパラガス、パプリカ)の導入を推進

○ 地域の潜在的な労働力を活用した生産拡大

- 地域の潜在的な労働力を活用したアスパラガスの夏芽管理外部委託後の、翌春の春どりへの影響を調査(2ほ場)

イ 信州農産物等の輸出拡大

目標指標	現状 (2016年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
県産農産物等の輸出額	5.6億円	12.1億円	20億円

(1) 輸出货量拡大に向けた取組強化

- 長野県農産物等輸出事業者協議会において、輸出支援員を香港に2名、シンガポールに1名配置し、海外における農産物の販売、流通動向を把握するとともに、輸出に取り組む事業者の支援等を実施
- 海外における県産農産物の認知度向上を図るため、香港、台湾、シンガポール及びタイにおいて、輸入事業者等と連携し「長野フェア」を開催

(2) 有望な輸入事業者との取引拡大

- 有望な輸入事業者と県内事業者との信頼関係の構築のため、長野県農産物等輸出事業者協議会、(公財)長野県中小企業振興センター及びJETROと連携し、輸入事業者を長野県に招へいし、産地視察及び商談を実施(延べ14ヶ国・地域 延べ14事業者)

(3) 輸出環境課題への対応

- 輸出対象国毎の輸出条件に的確に対応するため、タイの植物検疫官による現地査察に対応（9月）するとともに、台湾向け青果物の栽培園地及び選果こん包施設の登録及び選果責任者等の研修を実施（2回 6月：りんご、なし 3月：もも、すもも）
- タイ向けの青果物輸出について、選果こん包施設の衛生管理規格（タイ向け J F S 規格）の認証取得を支援（対象品目：ぶどう、りんご 7施設が取得）

(4) 県内食品産業や観光との連携

- 長野県農産物等輸出事業者協議会と連携し、輸出対象国における県産農産物の認知度向上・商品力強化を図るため、輸出事業者等へのアンケートなどにより現地のニーズに合わせた輸出専用パッケージを試験的に作成



【輸出専用パッケージ：ぶどう（左）、りんご（右）】

ウ 食品産業の信州農畜産物利用拡大

目標指標	現状 (2016年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
県が主催する商談会における成約件数	208件	271件	350件

(1) 県内食品産業の多様なニーズに対応した信州農畜産物等の利用拡大

- 県内の食品製造業における県産農産物の利活用を推進するため、信州6次産業化推進協議会に推進員1名を配置し、企業のビジョンや原料ニーズ、利用拡大に向けた課題等の聞き取りを実施

(2) 信州農畜産物の高機能性に着目した新たな需要の創出

- 機能性食品として消費者庁に届出が受理されたきのこ、ぶどう（ナガノパープル）の更なるブランド化に向け、長野駅での宣伝配布やフラッグを掲示し、消費者に積極的にPR

(3) 県内食品企業と農業者との農商工連携等による地域資源の活用

- 地域資源を活用した新商品の生産体制を強化するため、食料産業・6次産業化交付金（整備事業）によるシードル醸造施設等への支援を実施
- 食品企業・加工事業者と連携し、新商品開発や委託加工の手法、今後の販売環境等について習得する6次産業化マッチングセミナーを実施

4 農村の活性化

目標指標	現状 (2016年度)	実績 (2019年度)	目標 (2022年度)
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	40,827 h a	45,661 h a	49,800 h a
都市農村交流人口	624,909 人/年	580,179 人/年	690,000 人/年
新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	—	10 か所	25 か所

(1) 市町村やJA等と連携した農村コミュニティ活動への支援

- りんごやぶどう、えごま、陸わさびなど地域の特色ある農作物の生産量の増加、販売戦略の検討などの取組を行う地域を市町村やJAと連携して支援(中山間地農業ルネッサンス推進事業(18地区))
- 遊休農地を活用した農業体験交流や農作物のPRイベントなどを行う集落の取組を支援(農村活力創出支援事業(7地区))

(2) 地域の強みを活かした農村景観など地域資源の活用

- 信州の魅力あふれる棚田を将来にわたって保全していくことを目的に、棚田保全団体、市町村、棚田の保全に関心のある地域、企業、学校などの関係者が参加した「オータムセミナーin南信州」を開催(参加者:150名)
- 日本の棚田百選に選定されている棚田において、田植えや稲刈りなど体験イベントの開催を支援
- 地域の将来を担う子供たちに、疏水、ため池、棚田など農業資産の役割や維持管理の重要性を理解してもらうとともに、農業に興味を持ってもらうため、長野県の米づくりに関する社会科副教材を制作し、県内の小学校に配布
- 県内外から信州の農業資産を訪れてもらうため、信州の農業資産の魅力、「偉人を訪ねる」「四季の彩りを巡る」「物語を辿る」「技術・工夫を学ぶ」「棚田を楽しむ」の5つのテーマで紹介した冊子「一度は訪れたい信州の農業資産」を増刷・配布(15,000部)



【オータムセミナーin南信州】



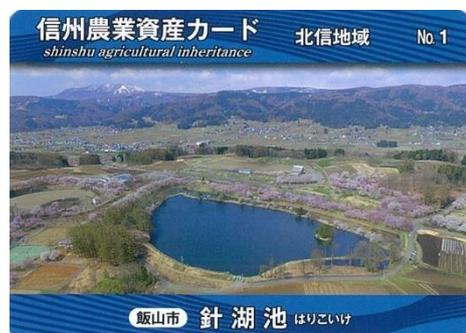
【配布した小学5年生社会科副教材】

- 安曇野市の拾ヶ堰、伊那市他の西天竜幹線水路等の築造の歴史や役割を学び、身近な農業資産への郷土愛を育むため、小学生を対象とした見学会を開催



【拾ヶ堰見学会の開催】

- ため池や疏水の景観を楽しみ、その魅力を感じることで施設を保全することの重要性を理解してもらうため、長野・北信地域の「信州農業資産カード」を作成しスタンプラリーを開催（延べ約3,900名参加）



【信州農業資産カード】

參考資料

令和元年度 主な農業関係表彰事業 受賞者一覧

全国表彰

※ 敬称は省略させていただきました

表彰行事名	表彰の名称	受賞者		受賞部門
		氏名	市町村名等	
令和元年度（第58回） 農林水産祭	内閣総理大臣賞	みなみ信州農業協同組合 柿部会	飯田市	
第49回日本農業賞	特別賞	農事組合法人 まっくんファーム	南箕輪村	集団組織の部
第79回中日農業賞	優秀賞	岡島 英由	飯田市	
第61回全国土地改良功労者等表彰	農林水産大臣表彰	大町市土地改良区	大町市	
第61回全国土地改良功労者等表彰	金章	小諸市御牧原土地改良区	小諸市	
第61回全国土地改良功労者等表彰	銀章	中信平土地改良区連合	松本市他	
農業農村整備優良地区コンクール	農林水産大臣賞	大平地区	富士見町	中山間地域等振興部門
農業農村整備優良地区コンクール	全国水土里ネット会長賞	池田南部地区	池田町	農業振興部門
国営土地改良事業地区営農推進 功労者表彰	営農推進功労者表彰	帯刀 佳郎	安曇野市	
令和元年度農事功績表彰	緑白綬有功章	中平 孝雄	松川町	
全国農村振興技術連盟表彰	広報大賞優秀賞	農地整備課	長野県	
豊かなむらづくり全国表彰	農林水産大臣賞	平生産管理組合	長野市	
令和元年度全国優良畜産経営管理 技術発表会	優秀賞・生産局長賞	有限会社 小田切牧場	東御市	
令和元年度全国優良経営体表彰	農林水産大臣賞	有限会社 トップリバー	御代田町	担い手づくり(人)部門

県域表彰

表彰行事名	表彰の名称	受賞者		受賞部門
		氏名	市町村名等	
令和元年度知事表彰	知事表彰	池田 和雄	信濃町	産業功労者
		矢澤 輝海	飯田市	産業功労者
		(特非)ぐるったネットワーク大町	大町市	産業功労団体
		夜間瀬かんがい排水事業組合	山ノ内町	産業功労団体
園芸特産業関係功労者表彰	知事表彰	飯田 好輝	佐久市	
		JA松本市ねぎ部会	松本市	
		特定非営利活動法人 風とみどりの会	長野市	
		吉家 一雄	中野市	

県域行事（品評会等賞状）

行事名	賞の名称	受賞者		受賞部門・受賞品	
		氏名	市町村名等		
【農林水産祭参加行事】					
第52回うまいくたものコンクール	農林水産大臣賞	上野 好太郎	須坂市	ぶどう (ナガノパープル)	
	農林水産省生産局長賞	関 良祐	中野市	ぶどう (シャインマスカット)	
	長野県知事賞	伊藤 俊幸	小布施町	ぶどう (ナガノパープル)	
		加藤 朋幸	飯田市	ぶどう (シャインマスカット)	
第51回 信州フラワーショー	農林水産大臣賞	林 俊哉	JA上伊那	トルコギキョウ	
		(有)末広農園	JA上伊那	アルストロメリア	
	農林水産省生産局長賞	名取 靖	JA信州諏訪	カーネーション	
		(有)末広農園	JA上伊那	ユリ	
		伊藤 哲	JA上伊那	アルストロメリア	
	農林水産省関東農政局長賞	三井 静明	JA信州諏訪	輪ギク	
		原田 邦彦	JA信州諏訪	トルコギキョウ	
		(有)信州グリーンサポート	JA上伊那	アルストロメリア	
	長野県知事賞	原田 里美	JA佐久浅間	トルコギキョウ	
		小池 直志	JA信州諏訪	カーネーション	
		農事組合法人らいふ	JA上伊那	ユリ	
		百瀬 明	JA松本ハイランド	カーネーション	
		中込 新一	JA上伊那	トルコギキョウ	
		依田 康志	JA佐久浅間	カーネーション	
		農事組合法人らいふ	JA上伊那	アルストロメリア	
		伊藤 佐九次	JA信州諏訪	アネモネ	
		はとざわ園芸 柳澤 源悟	JA信州諏訪	アルストロメリア	
		市川 征一郎	JA佐久浅間	レンギョウ	
	第51回鉢花類コンクール	農林水産大臣賞	宮坂園芸 宮坂 太木	原村	シクラメン ファンタジアデコラ
		農林水産省生産局長賞	まこと花園 丸山 誠市	安曇野市	ミニシクラメン スマーティスフレーム
長野県知事賞		宮澤園芸 宮澤 健一	飯島町	シクラメン エルフィンマーブル	
		キヨタカ フラワー カンパニー 水野 清貴	駒ヶ根市	ガーデンシクラメン スーパーペラノ	
第15回園芸加工品品評会 (園芸加工飲料の部)	農林水産大臣賞	日本デルモンテ株式会社	千曲市	デルモンテ桃太郎ブレンド 食塩無添加トマトジュース	
	農林水産省食料産業局長賞	長野興農株式会社	長野市	りんご三兄弟ジュースセット (秋映りんごジュース)	
	農林水産省生産局長賞	寿高原食品株式会社	千曲市	ももジュース	
	長野県知事賞	カゴメ株式会社	富士見町	カゴメ 野菜一日 これ一本 (リーフ)パック	
		ゴールドパック株式会社	松本市	食べるキャロットジュース	

行事名	賞の名称	受賞者		受賞部門・受賞品
		氏名	市町村名等	
第15回園芸加工品品評会 (園芸加工食品の部)	農林水産大臣賞	信越食品工業株式会社	長野市	金杏
	農林水産省食料産業局長賞	株式会社スドージャム	松本市	旬の雫 信州産 ブルーベリー
	農林水産省生産局長賞	株式会社ナガノトマト	松本市	ナガノトマト つぶつぶ 野菜入りケチャップ
	長野県知事賞	長野興農株式会社	長野市	ふるさとの 特選なめ茸茶漬80%
株式会社高嶺商会		小諸市	アップルクリームチーズ (松本産シナノドルチェ)	
第63回漬物類品評会 (浅漬物の部)	農林水産大臣賞	有限会社就一郎漬本舗	安曇野市	本わさび入野沢菜
	農林水産省食料産業局長賞	株式会社マルトウ	長野市	長いもしそ風味
	農林水産省関東農政局長賞	有坂食品株式会社	小海町	野沢菜漬
	長野県知事賞	有限会社宮城商店 木の花屋	千曲市	ザワークラウト
株式会社くるまや		御代田町	信州きのこの生なめ茸 うめ味	
第63回漬物類品評会 (本漬物の部)	農林水産大臣賞	新進漬物株式会社	木島平村	ブラック生姜
	農林水産省食料産業局長賞	有限会社本等山葵商店	安曇野市	ねぎ味噌わさび
	農林水産省関東農政局長賞	谷口醸造株式会社	飯田市	本漬野沢菜無化調
	長野県知事賞	有限会社就一郎漬本舗	安曇野市	なめ茸野沢菜わさび
丸二食品株式会社		佐久市	白うり粕漬	
第48回寒天品品評会	農林水産大臣賞	株式会社マルゴ商店 五味徳雄	茅野市	角寒天
	水産庁長官賞	有限会社イリイチ 小池隆夫	茅野市	角寒天
	長野県知事賞	株式会社かのう 松木久茂	諏訪市	角寒天
		有限会社イチカネト 五味嘉江	茅野市	角寒天
長野県きゅうり品質向上共進会	農林水産大臣賞	安藤 眞幸 ・ 安藤 梅子	高森町	きゅうり
	農林水産省生産局長賞	関川 晃 ・ 関川 民枝	長野市	きゅうり
	長野県知事賞	井原 修治 ・ 井原 邦子	阿智村	きゅうり
第72回長野県畜産共進会	農林水産大臣賞	蜂谷 純	みなみ信州	黒毛和種去勢理想肥育 県内産
	農林水産省生産局長賞	竹淵 洋平	塩尻市	黒毛和種去勢理想肥育 県外産
	農林水産省関東農政局長賞	株式会社夢ファームみなみ信州	みなみ信州	黒毛和種雌肥育
	長野県知事賞	全農長野県本部三岳牧場	全農長野	黒毛和種去勢理想肥育 県内産
		山浦建夫	佐久浅間	交雑牛去勢肥育
久保田聖		信州うえだ	交雑牛雌肥育	

【一般行事】

行事名	賞の名称	受賞者		受賞部門・受賞品
		氏名	市町村名等	
第42回信州きのご祭り 長野県きのご料理コンクール	長野県知事賞	今井 帆乃佳	上田千曲高校	きのごことサバ缶のオープン焼き
農村女性きらめきコンクール	最優秀賞 (長野県知事賞)	農村女性ネットワーク御代田	御代田町	地域活動の部
		神野 美津子	駒ヶ根市	若手女性の部
明日の農業を担う若人のつどい 「青年農業者プロジェクト活動コンクール」	最優秀賞 (長野県知事賞)	小川 哲生	上田市	プロジェクト発表
		柳澤 大作	東御市	意見発表
第29回信州の味コンクール	最優秀賞 (長野県知事賞)	関口 千賀子	野沢温泉村	商品加工の部
		筑北村農村生活マイスター 山田 千代子	筑北村	創作ふるさと料理の部
第41回長野県わさび共進会	長野県知事賞	黒岩 卓郎	安曇野市	丸堀 ハウス
第46回長野県茶の共進会	長野県知事賞	羽田野 七郎平	天龍村	やぶきた
第70回下伊那子山羊 共進会	特別優秀賞 (長野県知事賞)	一 英明	飯田市	
第40回信州和牛(長野県産) 枝肉共励会	最優秀賞 (長野県知事賞)	中原 洋	塩尻市	大阪市食肉市場
		(農)美雪ファーム樋口	栄村	京都食肉市場
令和元年度長野県乳質 改善共励会	最優秀賞 (長野県知事賞)	高見沢 潤	南牧村	年間300t以上
		渡辺 建夫	小諸市	年間150～300t
		鷹山ファミリー牧場	長和町	年間150t未満
令和元年度長野県中央 家畜市場子牛共進会	最優秀賞 (長野県知事賞)	古原 敬久	川上村	雌
		丸山 幸一	木祖村	去勢
信州牛生産販売協議会 第34回肉牛枝肉共進会	特別優秀賞 (長野県知事賞)	浅岡 久志	小布施町	黒毛和種
令和元年度長野県 自給飼料共励会	最優秀賞 (長野県知事賞)	井出澤和樹	南牧村	トウモロコシサイレージ
第46回 和牛繁殖技術共励会	最優秀賞 (長野県知事賞)	久保田義文	飯田市	
第16回鶏卵品質共励会	最優秀賞 (長野県知事賞)	(農)西ノ入養鶏組合	松本市	有色鶏
第2回信州プレミアム牛肉オール 信州共進会in京都	最優秀賞 (長野県知事賞)	三村 勉	松本ハイランド	